

平成28年度第2回秋田県生涯学習審議会要旨

I 日 時 平成28年11月14日(月) 午後1時30分～午後3時30分

II 場 所 県庁第二庁舎5階 52会議室

III 出席者 委 員：石川委員 奥 委員 柏原委員 吉川委員
小玉委員 近藤委員 高橋委員 照井委員

生涯学習課 : 沢屋課長、小玉副主幹(兼)班長、樫尾副主幹
柿崎主任学芸主事、長谷川社会教育主事、
小野学芸主事、林学芸主事

生涯学習センター：宮腰主任社会教育主事(兼)班長
高橋副主幹(兼)班長

IV 会議内容

1 開 会

会長あいさつ

2 議 事

テーマ「『こうどうびと行動人』を、人づくり、地域づくりに生かす取り組みについて」

- ・「こうどうびと学び人」を育成する取り組みについて ～様々な学習機会の提供～
- ・『こうどうびと行動人』を、地域で生かす取り組みについて ～『こうどうびと行動人』の活用方策について～

・(意見交換、質疑、応答)

○：質問 →：応答 ●：意見

事務局：前回は「『行動人』とは」といったことや、これまでの経緯についての説明が主であった。今回は、より具体的な提言、アイデアを議論していただきたい。

●：3つお話しする。第1は、県南あるいは県北の人は、秋田市だけでやる講座にはなかなか出席できない。県南、県北にサテライト会場を設け、インターネットでライブ中継をして近場で講座を受けられる仕組みをつくるか、各地持ち回りで開催するような工夫があってもいい。第2は年配の人向けの講座が多い。生涯学習なのでどんな世代でも受講できるテーマがいい。層(対象)を細分化して、その層の関心や悩みに寄り添うようなテーマ設定があるよ。第3に、「誰も

が」というのであれば、課題を抱えている人も参加できるような、講師になれるようなプログラムがあってもいい。地域の団体（例えば、障がい者を支援しているNPOなど）と連携をして、プログラムの開発から一緒にしてみてもどうか。

●：講座の広報の仕方に課題があるのではないかと。県立、市立、各市町村の公民館にチラシを配るだけでなく、『行動人の情報コーナー』というものをつくってその中でこういう講座がどこでいつ行われる、行われたという情報を常に発信することが極めて大切。講座開講後の情報提供も重要である。情報コーナーで講座を流すことによって我々も再確認できるし、多くの人がそこに引き込まれていくのではないかと。

●：スマートカレッジについては言葉とか名前とか知っている人はけっこういるが、それが何なのかということまで理解してはいない。各市町村の毎月の広報に、もっと優しい言葉で高齢の人も理解できる言葉で説明書きを加えて載せるといい。若い人と、上の世代の人との、得る情報量の差が前よりも大きくなっている。また、提供される情報の中身が、組織の中ですら行き渡っていない。

●：県内ではスマートカレッジではないが、類似した講座が立ち上がっている。県は県、市は市、民間は民間、ということで乱立している状態であるとするならば、県が中心となって、取りまとめとか連携していくことが必要である。『学び人』を増やすことを考えるのであれば、県民が知る機会を増やす、利用しやすいことを県、市、民間で考えることも必要である。

●：生涯学習自体が大切なことである。学歴とか学力テストとかで成績や点数、数字に振り回されている中で「今、ここが大事ですよ」ということをいかに私達みんなが認識して、心を豊かにするということが次につながっていくベースなんだということ再認識したい。講座を開催するときには、現場の声が一番大事だと思う。どんな人たちがどんな講座を望んでいるのか、どんなことを学びたがっているのか。学びたい人がいるのにどうして学べないのか。一番は、やりたい、勉強したいという気持ち、思いを形にするための講座があって、後押ししていけるといい。

●：どんな講座があるのか秋田市でないと知らないことが多い。情報交換はどうなっているのかと思う。情報交換はやる気になったら市町村の担当ともできるのではないかと。あとは「やりたい」と思いながら、一步を踏み出せないという人は結構いる。特に年齢が高くなると、自分から、しかも一人ではと参加をためらっている人が多い。ニーズも「お母さん世代」というはっきりしたものがあればいい。「誰でもいいですよ」というようなことであると範囲が大きくなったり、かえって参加しづらいものになる。県の講座も範囲が大きすぎて参加しづらいようなこともあるのではないかと。もう対象が決まっている方が参加しやすい。

●：地域の問題は大きい。遠いところでも講座には来たいな、というのが正直なところである。また、学校を終えて社会に出た後、いろんな人のために力を身につけて、活かしましょうというところの接続が足りない。学校の先生方は視野が狭い。学校教育の中にだけいて、とにかくいろんな力をつけて、卒業させるということに一生懸命で、学校を一步出たところに目がいていない。学校としては本当に今、子どもたちが少ないので、とにかく地域に出るようにしている。とにかくいろんな形で地域と関わろうとしているし、そういう学校が増えてきている。それと生涯学習とをうまくリンクできるようにしていけば、もっといいと感じる。

●：小学校、中学校では『行動人』のような地域の人材活用は多く行われている。自分が『行動人』として関わっていききたいという人を育てるまでには至っていない。『学び人』に関して言えば、

例えば秋田市だけでなく、県北、県南など少なくとも三箇所くらいに分散して、少しでも多くの県民が参加しやすいようにしていく必要がある。そのほか各講座、あるいは障がい者の方も活用して講座の中身の工夫といった話もあった。全県的な生涯学習講座を統一して情報提供することが必要である。これは県生涯学習課が先になって進めていただきたい。各教育事務所で社会教育主事がいるので、各市町村の指導もしているし、そういう情報も持っている。秋田銀行のような企業の講座も取り込んだ形で橋渡しするなどしてほしい。今後は人口減少も益々進んでいくので今のままでは厳しい。スクラップアンドビルドも必要である。

●：「生涯学習のビジョン」にある「学んだことを適切に活かす社会の実現」が図られなければならない。「成果を活かす適切な社会」、なぜこれを持ってこななければいけないのかということについては我々の共通理解ができていない。問題なのは人口減少。次をつないでいく世代がない。財政難になり、一番先に生涯学習等が削減される。これからは行政サービスが立ち行かなくなる。秋田県は少子高齢化が全国一のスピードで進行している過疎県である。こうした現状に対応するために、生涯学習のあり方も、行政サービスを地域力に委ねていくような体制づくりにわずかずつでもシフトしていく必要があるように思う。「行動人」とは、そうした地域主体の生涯学習活動の一つの携帯なのではないか。そういう視点で考えていかなければならない。

●：二つ大きな問題がある。一つは人口減少、もう一つは高齢化社会をいかに生きがいを持ってやっていくか。一番は雇用問題、そしてその次にどうエンジョイするか。いずれ縦のつながり、横のつながりを強める必要がある。

●：「行動人」が地域を担う人材として期待されるのであれば、将来を担う若者を育成する必要がある。ところが、高校、大学から社会人への橋渡しができていない。また、若い人もいずれ年をとることから、若者対象の人材育成を継続的に行うのはどうか。

●：世代をつなげた教えが存在しないといけない。秋田県は「国指定の無形文化財」が日本一である。異年齢集団が自然とできている。地域の文化の魅力を大切にする講座をひらく。自信を持てる祭りがある。大人たちに浸透させる。若者はカッコいい大人に憧れる。

●：地域では「ふるさと教育」をやっている。地域によっては学校がやらないと成り立たないところもある。

●：行動人のホームページを見た。ホームページから受ける印象は待ちの姿勢である。マスコミに記事として取り上げてもらうとか必要。その人も認めてもらえるし、県民もこういうことがあるのかと感じる。

●：行動人を地域で活かすということに違和感を感じた。行動人は既に行動している。学び人に行動してもらうことが大切である。講座のメニューの中に学びから行動までをワンパックにしたものを作ってはどうか。あるいはコーディネーターが間に入り、学びの段階でチームを作ってしまっただけで学びが終了した後に動き出すような仕組みを作ってはどうか。あとは単純に行動人をどう活かすかということであれば学校の総合的学習の時間やふるさと教育の講師として招くことも考えられる。

●：学びから行動までをセットにするのは、とても良いアイデアだと思う。こうした講座の在り方への見直しが大切だろう。知が行いを生むと言うがそうではなく、どちらかというも行いこそが知を誘発するのではないか。「人は自ら行うことによって学ぶ」と言うのではないか。

●：私は寒天教室をやっている。午前中寒天を作って、固まる間に参加者とお昼ご飯を一緒に食べる。その間に漬け物などを交換することで次回は〇〇さんを先生に漬け物教室をしようという話しになる。食材、ネギや大根など、野菜の栽培の話しにもなってどんどん活性化していく。

●：コーディネーターという話しも出たがどうか。

●：私は色々な事業をやっていて、参加したお母さんが色々なことに挑戦していくのを見ている。その中で一番最初に呼びかける人、つなぐ人が大切。ノーバディパーフェクトをやったときに、悩みを共有したり、自分で書道教室を始めたり、ファシリテーターになった方もいた。

●：お父さん方を引き出すのが難しい。

●：男の人はバーベキューとかアウトドア、火起こしやモノに興味がある。

●：河川とか海がいい。秋田は全国的にも河川や海の魚影が濃いことで有名だ。こうした場を活用するなら良い学びの場になるのではないかな。

●：男性も頼まれれば行く。声をかけるといい。PTAでは「おやじの会」なんかもある。

●：生涯学習奨励員が市町村にいる。奨励員はその役目としてその町のチラシをよくみている。そして皆さんに「行ってみないか」とかという声をかけている。各市町村にそういった方はいるのでできると思う。

●：はなから「生かしますよ」という講座がいいのではないかな。

●：NPOの支援員をしている。解散するNPOが増えている。原因の1つはメンバーの高齢化。一方で、退職した後に第2の人生をどうすごそうか、どう地域にとけこもうか悩んでいる現役世代もいる。行動人のホームページも大切だか、そんな方が自分の道を探せるような冊子があればいい。年配の男性は特にそうかと思う。

●：美郷町の役場職員さんにまさにそういう方がいる。男性は「男の料理教室」などに入ってくる方が多い。

●：高校の立場から考えてしまうと、いろんな講座について高校の方にもお知らせしてほしい。宣伝、高校生はスマートフォンを活用している。SNSとかそういったものを活用した宣伝をしてほしい。

●：若い人向けの平日の午前中に公民館で行う講座をやるというのもあってもいいかと思う。

3 閉会

・ 沢屋生涯学習課長あいさつ